

こんにちは。寒い日が続いていますね。皆様風邪などひいてはいらっしゃらないでしょうか？寒いのはイヤ！という方も多いと思いますが、この寒い冬だからこそその絵本というものがあります。寒い冬にぜひ読んでほしい！そんな1冊をご紹介します。

『ゆうかなアイリーン』

ウィリアム・スタイグ 作 おがわ えつこ 訳 セーラー出版

1575円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

かぜをひいてしまったおかあさんのかわりにおかあさんのつくったドレスをおやしきのおくさまにとどけようと、ふぶきのなかをしゅっぱつしたアイリーン。つよい風と雪にまけないようにがんばりますが、ついに風にドレスをさらわれてしまいました！アイリーンはおくさまにこのことをごほうこくしようと、からのほこをもっておやしきをめざしますが、雪にあしをとられてあしくびをねじってしまいます。それでもあるきつづけるアイリーンですが、ついに冬の日はくれ、とうとうだめかもしれないとおもいはじめたとき、やみのなかにおやしきのあかりがみえたのです！

<子どもに手渡すときのポイント>

お母さんのために懸命に頑張るちょっとおてんばなアイリーンの姿が、ユーモアをもった絵と文章で描かれた人気の絵本です。冬にぴったりの絵本なので、今年の早良図書館のおはなし会でもひっぱりだこでした。早いもの勝ちでこの本をキープした私の先日のおはなし会には、幼稚園と小学生の子どもがきてくれていましたが、どちらも目を話さず、しっかりと聞いていました。初版が1988年ということもあって図書館の本の中には絵の色が褪せてしまった本もあります。(早良図書館も実はそうでした。)今回のおはなし会にあたって、新たに買いなおした他館の絵本を取り寄せて手にとって見ると、アイリーンの赤い帽子や手袋の色も鮮やかで、おはなしの面白さを引き立ててくれました。皆さんも、もしおはなし会などでお使いになるときはカウンターで相談していただいて購入年度が新しいものを使ってみてください。

絵本の最後は読み手や聞いている大人の心がほっこりあたたかくなるお母さんの言葉で締めくくられています。寒い冬を感じながら、心があたたまる1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか